

日本全国、訪れるべきショップBEST10 / 東京・大阪・福岡111名のスタイルサンプル。

THE DAY



SHOP & STYLE

東京

- TOKYO -

THE DAYが追いかけるのは、西海岸に生きる人々のように程よく力を抜いて「自分らしさ」を大切にするオトナ男子。そんな彼らの真冬コーディネートを手探りでサンプリングすると、そこには大切なアイテムを自由に着こなし、ファッションを楽しむ力が見えてきた。



第2特集

全国から厳選
ザ・ベスト10ショップ



1特集

東京・大阪・福岡
Style Sample
17 Winter



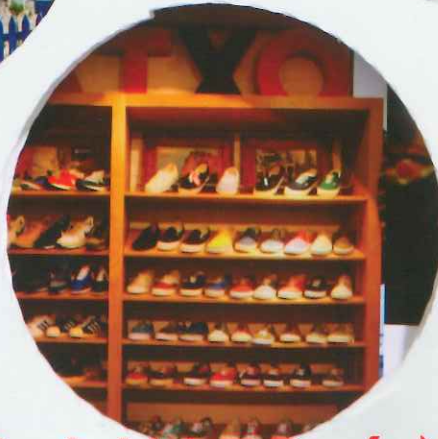
オトナ男子の
着用ディテールから
冬スタイルを考察



フェートン

すべての空間を使い
変えてくれる特別な場所。

関東、東北、北陸、
中国、九州の
を総力取材。



第3特集

価値ある古着を
掘り起こす。

MAP / SHOP / USED / NEWS / and more.

とある部屋

第六回
記憶のなかのジュブナイル。
子ども部屋は宇宙へとつづく。

Styling | Shinya Endo Photo | Kenji Nakata Story | Kenji Nakata



ストリングシェルフ ¥92,000 (ストリング)、フェザーペン ¥1,800 (ペイラク ¥152,000 (サニマルキナ)、シープスキンラグ ¥24,000、ルミオ ¥29,600 (ルミオ)、すべてセブンイレブン 03-6407-9081)、ハズラリウム ¥3,800、トイカー ¥4,500 (キャンディラボイ)、ディベカードホルダー ¥1,500 (キッカーラズ)、フォレストコレクションラック ¥14,000 (メロウイングス)、タール/スノーグロブ ¥9,000、ハブハイモデルキット ¥3,500 (バウンズレスブックリン)、トイスター ¥1,200 (トイスター)、メイソンジャー ¥6,500 (ボールメイジャー)、すべてショップディテール 03-3711-8838)、ハダフライク ¥4,900、マグニファー ¥800、ラバーアニマルアクリター ¥3,800、オーシャンシクナルフラッグエプロン ¥1,600 (すべてアプエブ 03-3452-6766)、ホックスクリーン、レッド ¥1,200、グリーン ¥1,500、ヘンダントライト ¥18,000 (イエローハンマー)、グミホルダー ¥3,500、クッションフェザー ¥10,000、レザーモビール ¥6,500 (テイラーウッドピラミッドオブジェ ¥3,000、ハンドメイドフレーム ¥25,000 (ヒノトワークス)、ワインテージロック ¥4,500、数字おもちゃ ¥2,700 (すべてノートワークス 03-6450-7392)、ワノワテーブル ¥8,500 ¥48,000、ペンスタンド ¥2,000、ナチュラルスタッキングトイ ¥4,930、ラフトラベッド ¥128,000 (すべてアクタス)、クルマのおもちゃ ¥2,200 (キコ)、ブックエンド ¥6,500 (THE200)、クラフトコレクション ¥5,300 (すべてアクタス 03-5269-3207)、ワインテージフロアスタンド ¥38,000、ワインテージプランケット ¥18,000、ウツェントラックモデル ¥4,800 (すべてクスタスファニチャー 03-3460-2530)、カクタスクッション ¥2,800、カクタスクッション ¥3,200、マクラメウォールハンギング ¥3,500、キッズティ ¥18,000、シテイクッションサンフランシスコ ¥2,500、カクタスグラスオーナメント ¥2,800 (すべてアマプロ 03-5457-1210)、メキシコエキパルチ ¥27,000、レーザーバスケット ¥36,000 (ともにブリック&モルタル 03-6303-3300)、その他スタイリスト私物

ア

「ノルド・ノーベルの『ふたりはいつも』という二冊。有名な「がまくんとかえるくん」シリーズだ。ある朝、ふとんから出たくないとこねるがまくんをかえるくんが「すてきなふゆだよ、きれいだよ」と冬服を着せて外に連れ出し、そりに乗せる。ふたりでそりに乗っていると、いつの間にかかえるくんは転げ落ちてしまいが、がまくんはそれに気づかない。「かえるくんがいてくれてうれしいよ。ふゆはおもしろい!」そうこうしているうちにかえるくんがいなくて、ことに気づき、がまくんは慌てて雪に突っ込んでしまふ。どかん!そして、「ふゆはきれいだけど、ベッドはもったいものだよ」とがまくんはまたふとんに戻ってしまふ、というおはなし。がまくんにとって外に出ても出なくても「ふとんがいちばん」なのは変わらないのだけど、かえるくんがいるおかげで「ふゆはおもしろい」と知ることが出来る。ほっといたらずっとふとんの中にいそうながまくんを無理やり連れ出してくれるかえ

るくんを見ていると、友達でいいものだなあと素直に思えるのだ。読んでくれたおばあちゃんの声が今でも思い出せるくらい、くつかえし、何度も何度も。忘れられない絵本はあります。冬になると心が子どもに戻っていく気がする。なぜか、しんしんと雪が降るような夜の静けさとか、次の日の朝には何か起きるんじゃないかってそわそわする気持ちとか。いつもは真っ暗だった住宅街の帰り道にいつの間にかキラキラ光る電飾が飾られていたり。クリスマス前のドキドキはまだ心に残ってるし、10歳の頃の自分がまだそこに立っている気がする。言葉にできないおもちゃも、ふわふわとした気分をさせられるこの季節は、心のなかのファンタジーがかきたてられるような気がしませんか。

不思議な経験をしたことはあります。3歳の頃に引越してきた海沿いの軒家には、私と姉の他にもう一人いるはずのない女の子がいた。大人になるにつれて見えなくなりましたが、それまではふつうにあつちこつちについて、窓の外で手をふつてきたり、家の廊下を歩いていたり、一緒に遊んだりしてた。今思うと不思議だけれど、そのときは何とも思わず、ちつとも怖くなかった。細かい表情は思い出せないが、その子は三つ編みをしてワンピースを着ていた。「もう少しここにいてもいい?」。ある日、子ども部屋でそう尋ねられた。「うん、いいよ」と答えたのをなんとなく覚えてる。いつの間にか私も姉も見なくなり、見ていたことも見なくなったことも不思議に思わず自然に暮らしていた。その頃は他にも変わったことが多くて、父親が家に帰ってきて階段を上がっていくのを見た直後に、また玄関から父親が帰ってきたり。そんなことがよくあった気がする。子どもってそういうものなのかなと今は思う。

天井には星が光っていたし、どこか遠くに行ってみたくと思えば地球儀や絵本がその手助けをしてくれた。クローゼットはどこまでもどこまでも続く洞窟の入り口で、その中には得体の知れない真黒でとつともなく大きい怪物がいるような気がしてならなかった。お菓子をポケットに入れ、片手に武器を持ち、少しの恐怖と大きな期待を胸に小さな宇宙へと旅に出る。目覚めるたびに、1日はとつともなく長く長く、「夜」という闇の中に広がっている宇宙はもつともつと広がった。そうして物語の世界をさまようことができた子ども時代は、ものをしゃべるカエルと語りあつたり、かいじゅうの王になれたり、ときに自分自身がまっしろい紙の上にその世界をうつしだすこともできたのだ。世界の見かたをほんの少し変えることで生まれてくるファンタジー。それは映画や本の中だけじゃなく、現実になつて転がっている。あの女の子、元氣かな?

REISM



「とある部屋」を用意してくれたREISM (リズム)は、都心で働く20~30代の「スタイルのある」シングル向けリノベーションルームを提案するライフスタイルブランド。あたららしい暮らしに出会える。www.re-ism.jp

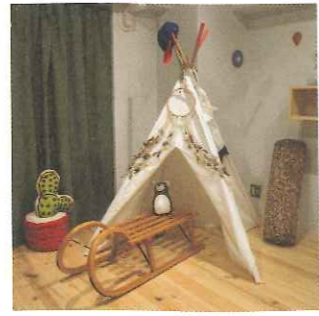
「Plain」と名づけられたこの部屋は、REISMのリノベーション賃貸シリーズのひとつ。グレーがかった落ち着いたブルーの壁、パイン材のフローリング、コンクリートの質感が魅力的。飾り棚やビクチャーレールも嬉しい。



想像が膨らむアートワークやオブジェ、スノードームにウッデン・トイ、ジュブナイルにロアルド・ダール。小さなひとつひとつが、いつか大きな宝物の種になってくれるかもしれない。できるだけ捨てないでとっておいてほしい。



1949年にスウェーデンの建築家ニルス・ストリングによりデザインされた収納システム「ストリング」は、様々なパーツがあり組み立てが自由な壁付けシェルフ。成長してかからパーツを足して使い続けられる相棒だ。



「部屋の中に部屋をつくる」。秘密基地への憧れは大人になってもそのまま。ネイティブアメリカンの住居として使われていたティピをキッズサイズにチェンジ。ベッドにいる時間よりここにいる時間の方が長かったりして。



吸い込まれそうな灯りが漏れるブック型のポータブランプ「ルミオSF」。その名の通りSFチックな異世界感が部屋を包み込んでくれる。本を掛けて表紙と背表紙をくっつけると丸型になり、魔法のように光が広がる。



子供が絵本を読み聞かせてもらうこと。それは僕らが映画を観るのと似ている。頭からつま先まで別世界へとほん、だ。丸みを帯びたワノワテーブルならぶつかっても安心、スツールはテーブル下に収納できる便利なもの。